

## 平成29年度第3回 豊川市子ども・子育て会議 会議録（要約）

平成29年12月21日（木曜日）  
午後1時30分～午後2時50分  
於：豊川市役所 本34会議室

### 1 あいさつ

白垣会長によるあいさつ  
（略）

### 2 議事

#### (1) 平成30年度教育・保育施設入所申込状況について

【事務局説明の後、質疑・意見は特になし】

#### (2) 豊川子ども調査の集計結果について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・事務局説明では、「さらに詳しく分析を進める。」「愛知県全体の結果と豊川市の結果に特筆すべき際は無い。」「県の提言内容は、そのまま市にも適用できるのではないか。」とのことだが、そういう面もあるかもしれない。しかし、細かい項目ごとの分析をしたときに県と市でどれだけ違うか、それぞれの対象者の属性によって分けたときにどう違ってくるのか、また今回対象ではなかったが、幼稚園と保育園での結果の違いとか、場合によっては独自の項目を加えることで、浮き彫りになるはずである。

「子どもが輝く未来に向けた提言」というのも、スタートラインとしては大事だが、せっかくこれだけの調査をやったのだから、その先どうなるのかというのは、今後の詳しい分析によると思う。

- ・調査結果の中で見るべきところはたくさんあると思うが、例えば子どもの貧困率について、豊川市は低いといっても5.2%はある。事務局が言うように、現金支給をすれば子どもの貧困が解決するというものでもない。根本的な原因を探ってそこを解決しないといけない。この調査結果だけでどうするかを考えると、対処療法でしかない。元々どうしたら良いのか、という根本的なことを考えると、市だけでは解決できない、社会の枠組みみたいな大きな話になるかもしれないが、提言ぐらいしてもいいのでは無いかと思う。

（事務局）貧困の連鎖を止めるというのが、一番の解決方法と考える。しかし、果たしてどうすれば貧困の連鎖が止まるかということが、いろいろ調べても明確な答えが見当たらない。

- ・社会的に要請されている子どもの進学など、教育的なことについて、高校の授業料の無償化はある程度あるにしても、大学は授業料が高いのが気になる。

（事務局）貧困の連鎖について語ると、どうしても出てくるのは教育の問題である。ちゃんと勉強して、ちゃんと働いて、ちゃんと自分で収入を得るようにしないといけない。生活保護世帯の子どもが大きくなって、やはり生活保護を頼るというケースも少なくない。生活保護として行政からお金を出す額と、働いて収入を得て行政に税金を納める額の、プラスマイナスの差が結果的にかなり大きいということをよく聞く。

- ・非行を起こす子ども達、荒れていく子ども達を見ていると、やはり経済力が無い家庭、学力が無い子、ひとり親家庭という3要素を同時に持った子達は、そういう方向に行きやすいということをもっている。
- ・今はちょうど進路指導の時期だが、愛知県では私立高校については推薦と一般という試験があり、それに公立高校の受験がある。事例として、私立だけに行きたい場合、その推薦試験を受けることができる。それに合格した子が、前納金を払えない。私立に合格しているので、公立はもう受けられない。最終的には、単位制、通信制高校という進路しか選べない。また、別の事例として、私立と公立の両方を受ける子もいるが、私立に合格すると2万円前後の前納金を収める必要がある。その後公立を受けるのだが、私立の前納金を納めることができないまま、公立も不合格だった。前納金を納めてないために私立には行けず、私立で合格が出ているので、公立の二次募集も受けられない。これも行く先は単位制、通信制高校になってしまう。
- ・高校入学にあたって、市や県にはいろんな補助があるが、まず保護者が最初に払わなければならない。補助は、後から補填するだけ。最初に保護者が払うのが苦しい、といったケースがある。
- ・県の提言の中で、「少人数学級の更なる充実」とある。学習の定着が遅い子に対し少人数で授業すると、学力は良い方向には向かう。ただし、少人数学級を広めようとすると、費用もかかる。
- ・県の提言には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーという言葉も出てくるが、この人たちの時給は高い。この人たちの配置に予算がつけばありがたい。それで貧困を断ち切れるかどうかは分からないが、貧困の連鎖を生まないために、少しでも質の高い教育を受けられるようにするため、県や市にやっていただきたい。
- ・市内の無料塾や子ども食堂について知りたい。

(事務局) 無料塾については、市の広報等による周知はしていない。生活保護世帯などの中学生を対象としている。現在は約20名程度いる。社会福祉会館で、週2回、毎週木曜日の夜と日曜日の昼に2時間ずつ行っている。今年の7月にスタートした。シルバー人材センターに登録された教員OBや、大学生ボランティアにより、教えていただいている。普通の塾のように先生が教壇に立って、何かを教えるというスタイルではなく、マン・ツー・マンに近い形で、各生徒が持ってきた課題を教えている。勉強を教えることも大きな目的ではあるが、子どもの居場所づくりの意味もあり、毎回2時間の後半30分程度は、差し入れられたお菓子等を食べながら交流会のような形でコミュニケーションを図っている。遠方の生徒については、送迎も行っている。生徒は、広く一般に募集するのではなく、個別に声掛けを行っている。

子ども食堂については、市内に1か所ある。去年の11月から、豊小学校区内で、NPO法人が毎月1回、土曜日の昼に行っている。ただし、主催者の方針で、「子ども食堂」ではなく「みんなの食堂」と称して、老若男女を対象としている。そのため、必ずしも貧困世帯の子どもだけでなく、いろんな方が来ているようだ。大人は有料、子どもは無料となっている。食事の提供だけではなく、居場所づく

りも目的となっている。食材は、地域からの寄付など、なるべくお金がかからないように行っている。他にも子ども食堂を開設しているところがあるかもしれないが、今のところ聞いているのはこの1か所のみである。

- ・問題のある家庭を見ていると、子どもを育てるという感覚が無い家庭が多い。昔は子どものためには何らかの貯金をしていたが、今はそういう感覚が無い。子どもに全く手を掛けず放任しており、生活保護を受けることが恥ずかしいという感覚も薄れてきている。貧しくても愛情を持って子どもと接し、子どもが問題なく成長している家庭もあるが、そうでない家庭も多い。

### 3 その他

(事務局より) 次回は3月20日(火)を予定。